

JA支援事業

JA共済「介護ノウハウ等の提供活動」

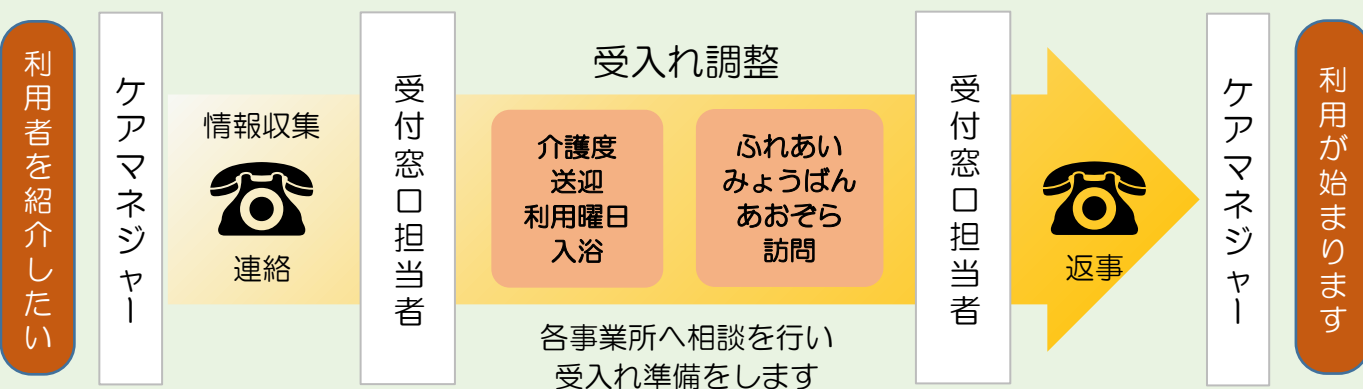
J A共済の関連施設である当センターは、J A共済連からの委託事業として、J Aの介護事業の質的向上を図る為、「介護ノウハウ等の提供活動」を行っています。別府リハビリテーションセンターの理学療法士・作業療法士等のリハビリ専門職がJ Aの介護施設・県中央会、J Aの助け合い組織・女性部等に対し、介護ノウハウを提供する活動です。

西日本圏域は当センターが支援を行い、東日本圏域は、静岡県にある農協共済中伊豆リハビリテーションセンターが支援しております。

「通所介護施設での機能訓練に悩んでいる」「訪問介護で介助方法に困っている」「介護予防体操や認知症予防体操を教えて欲しい」等のご要望に対し、私たち専門職が訪問し、実際の場面でアドバイス等を行っております。



紹介から利用までの流れ



受付窓口担当者：通所リハビリ部門 渡辺 0977-67-1714 ・ 訪問リハビリ部門 浅野 0977-67-5888

初別府リハビリセンターの開設から10年が経過し、この10年間の活動の振り返りを、編集後記として掲載いたします。この10年間の活動の振り返りを、編集後記として掲載いたします。

初別府リハビリセンターの開設から10年が経過し、この10年間の活動の振り返りを、編集後記として掲載いたします。

初別府リハビリセンターの開設から10年が経過し、この10年間の活動の振り返りを、編集後記として掲載いたします。



Tsūriha Houmonriha

制作・発行
社会福祉法人
農協共済
別府リハビリテーション
センター
介護保険事業部
広報委員会

すべての人が地域でしあわせに生活できる社会の実現
～Be true to Rehabilitation～

10
令和2年
2020



社会福祉法人 農協共済
別府リハビリテーションセンター

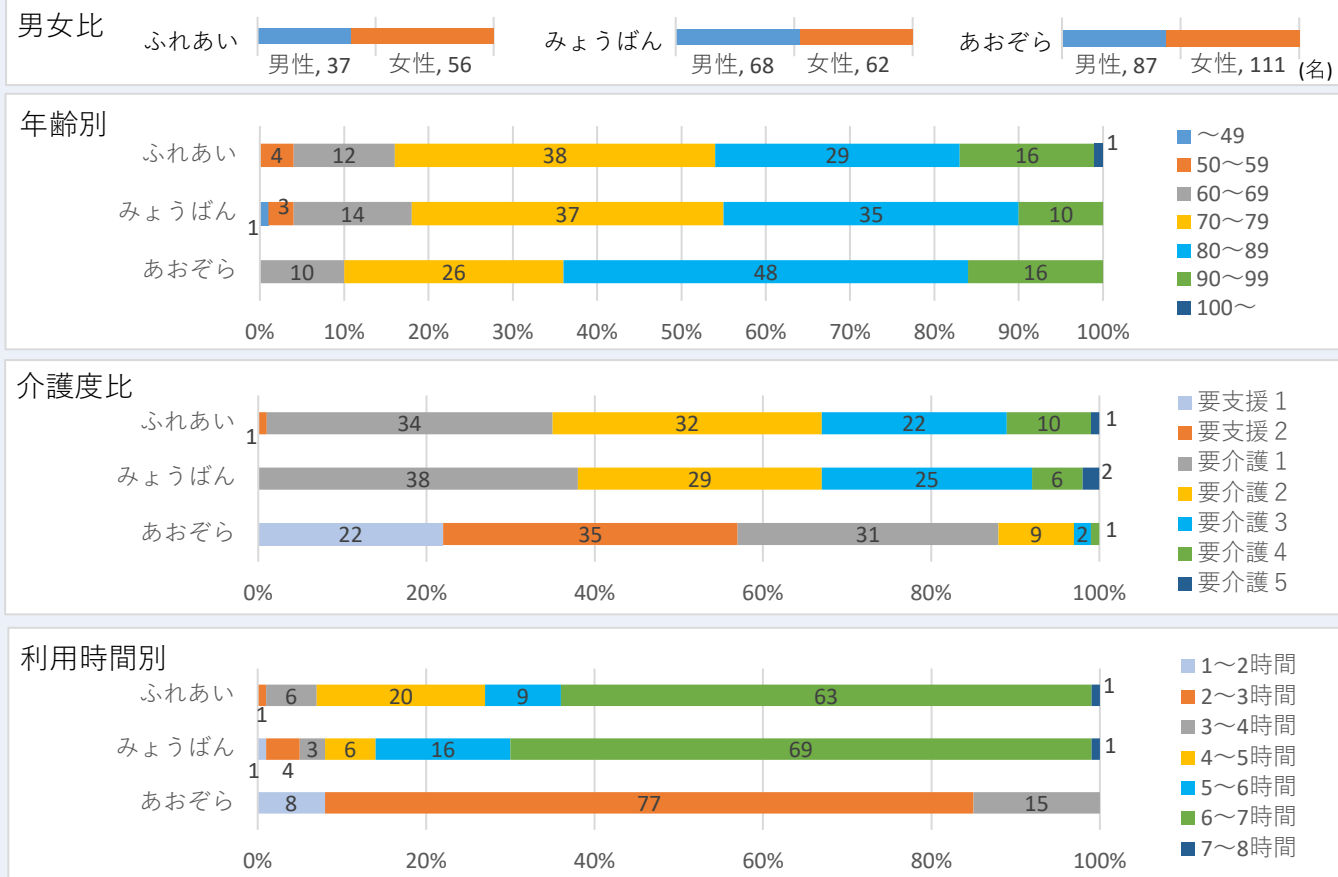
通所・訪問リハビリの紹介

通所リハビリふれあい
みょうばんクリニック通所リハビリ みょうばん・あおぞら
みょうばんクリニック訪問リハビリ

編集後記

◆ 通所リハビリに関する実績 ◆

R2年9月在籍者状況



通所リハでは、リハビリの効果の指標として、定期的に評価を行っています！
令和2年9月末登録者（通所リハふれあい・みょうばん・あおぞら）の評価を
まとめました。

前回測定値よりも、維持・向上した利用者の割合は以下の通りです！

握力
60.5%

握力は、単純に把握力を測るものではなく、全身筋力の指標となります。活動への耐久性をつけるためには、体力向上が欠かせません。握力はその評価につながります。



CS30
50.4%

CS30とは、30秒間に行える起立回数を測定します。足の踏ん張りだけで立ち上がります。下肢筋力の指標となります。



TUG
39.1%

TUGとは、座った姿勢から起立し、3m先の的を歩いて往復するのに要す時間を測定します。歩行能力・バランス・敏捷性などを統合したテストです。転倒リスク・運動器の不安定性を評価するものです。



バーセル
89.1%

バーセル・インデックス (BI) は、エビデンスのあるADL評価です。日常生活に必要な動作を10種類に分類し、自立の観点から、点数化して表記します。介護保険分野のサービス利用により利用者の介護度が軽減されているかの指標として用いています。

バーセルの結果より、約9割の方が生活機能を維持できています。握力・CS30も改善率が高い結果となりました。これらの機能向上が生活維持に不可欠であることを示しています。

通所リハビリ ふれあい

初めて通所リハビリを利用して

令和1年12月に脳出血を発症後、急性期病院での治療を経て、別府リハ回復期リハ病棟でリハビリに取り組んだY様。退院後、自宅生活の安定と身体機能の維持向上を目的に「通所リハビリふれあい」を利用開始。

何事にも積極的に取り組まれる性格がゆえに、自宅退院後、転倒リスクのある動作に挑戦し何度か転倒されました。そのため、スタッフが自宅訪問し生活動作の確認と助言を行いました。

「通所リハビリふれあい」では、機器を使用した筋力強化や歩行訓練に加え、入浴やトイレ動作に関してもリハビリとして捉え、少しでもできることが増えるように支援しています。

現在は、転倒することも減り、生活範囲の拡大がみられます。週末は御主人と一緒に料理を作っています。「リハビリは楽しい！もっと動けるようになって、夫に料理を振る舞ってあげたい」と今後の目標を掲げ、取り組まれています。



訪問リハビリ みょうばん

家事動作獲得から、さらなる挑戦を！

急性期病院退院後、回復期リハ病棟でリハビリを受け、市営住宅4階の自宅で生活をしているS様。退院直後より訪問リハビリ、通所リハビリ、ヘルパーを利用開始しました。訪問リハビリでは、自宅内の基本動作や環境確認から始め、家事動作の拡大を目指しました。まずは洗濯物を干す・取り込む・たたむ・片づけることから始め、その他、食器

洗いや食器棚への片付け、簡単な調理、掃除機かけに取り組みました。

また「家でお風呂に入れるようになりたい」との希望に向けて、福祉用具の選定やヘルパーへ動作方法・介助方法の伝達を実際の場面で行い、週1回自宅へ入浴支援が可能となりました。現在は「近隣コンビニで買い物ができる」ことに向け、屋外歩行練習やコンビニ内での買い物練習を行っています。これからも生活範囲を拡大し、活動的に過ごせるよう支援していきます。

